

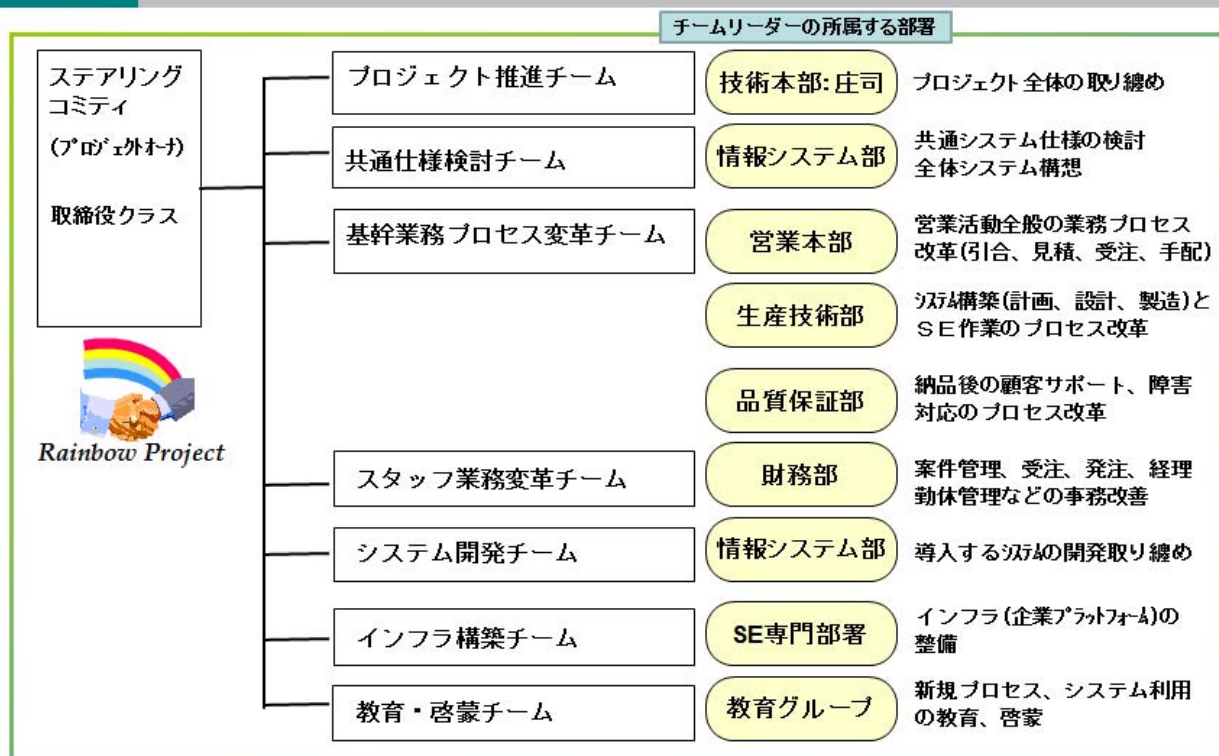
「自社の経営と I T の一連の革新活動を率先する」

I T C みやぎ 庄司貞雄



(株)日立東日本ソリューションズでは、5年ほど前にソフトウェア開発企業としての業務プロセスと I T インフラの刷新活動を全社を挙げて行いました。通称レインボープロジェクト（以下 R P ）と呼ばれた改革プロジェクトを私がプロジェクトマネージャとして統括し、足掛け3年に渡る改革を成果が出る形で終えることができました。このとき、I T コーディネータとしてのスキルと知識が大きく役に立ったと思っています。

レインボープロジェクト推進体制



All Rights Reserved. Copyright © 2010 Hitachi East Japan Solutions, Ltd



私が I T コーディネータを志したのは、それまで基本ソフトの設計や、大規模な顧客システムの開発に携わる過程で、技術だけでなく経営そのものや業務プロセスに対するスキルの重要性を認識したからでした。また、品質保証部の部長として品質マネジメントシステムの導入や経営品質向上の活動に関わる中で学んだ I T スキルと経営や業務プロセスに関わるスキルを統合したいと思っていたからでした。

R P は全社員の 1 割程度が参画したプロジェクトでした。経営や I T 戦略の策定に関わ

るフェーズとして業務プロセス上の欠点をセルフアセスメントで抽出し、プロセスの改革とITインフラの刷新を表裏一体で進めました。管理チームから、社内システムの開発チームや教育啓蒙チームまで、虹の七色に見立て7つのサブチームで活動し、ソフトウェア開発企業として必要な情報の可視化と共有の仕掛けを刷新しました。この成果は広くグループ企業からも着目され、類似の改革プロジェクトが多く立ち上がる魁ともなりました。

現在も私は技術系のコーポレートスタッフ部門の長として、自社の様々な革新活動を率先垂範する立場にあります。ITコーディネータの資格を取得して良かったと思うことは、このような活動に必要な実践的なスキルを身につけられたことです。また、日々学習を続ける動機になっているということです。私はお客様と直接に接する立場ではないですが、ITコーディネータ資格者のコミュニティ活動を通して、多くの方々と接点を持つことができ、企業内資格者であるにも関わらず企業の枠を超えて活動の幅が広がっています。

最後に私がITコーディネータに相応しいと思っている言葉を引用いたします。

「Luck Is No Accident」の著者J. D. クランボルツとA. S. レヴィンの言葉です。

「いつも学び、いつも挑戦し、いつも好奇心を持つ」

以上